

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりの個性に応じて、その力を最大限に伸ばす、多様な学びを可能にする教育を展開します。

○【礼儀をわきまえ「人」としての心を大切にする学校】⇒自他ともにかけがえない存在であることを自覚し、感謝の心・思いやりの心を育みます。

○【自主的に考え判断し失敗を恐れず努力し続ける生徒を育てる学校】⇒何事にも誠実に責任を持って行動する力を育みます。

○【社会奉仕の精神の涵養を育む学校】⇒生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送る基礎を培い、他を尊重し社会の一員としてともに生きる心を養います。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成と進路実現
- (1) 学習指導要領を踏まえ創意工夫にもとづく教育活動の充実を図る。
- ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。
- イ 「観点別学習評価」による【計画⇒実践（指導）⇒評価⇒改善】により評価の『信頼性・妥当性』を高める。
- ウ ICT の効果的な活用により、一斉指導、個別学習及び協働学習を組み合わせ、学びの深化を図る。
- エ 未来社会の担い手として、積極的な AI 活用による探究活動の基礎力を培う。
- オ 「成年年齢 18 歳への引き下げ」に伴い、社会で求められる資質・能力の育成を丁寧に実施する。
- (2) 自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進
- ア 段階に応じた進路ガイダンス機能の充実を図る。
- イ 生徒の進路希望に応じたきめ細かな情報提供や体験の機会を提供する。
- ウ 長期休業期間等を活用し、個に応じた講習会等を積極的に実施する。
- エ 姉妹校であるオーストラリア・クイーンズランド州バンダバーグのセントルークス校との交流等により外国語教育の充実を図る。
- オ グローバル社会に応じた体育科教育の充実を図る。(Memorandum of Understanding による)
- ※難関私立大学合格者数 (R5 80 人/229 人、R06 51 人/241 人、R7 72 人/243 人) 前年度率を上回る。
- ※学校教育自己診断「学校の進路指導は、進路選択・進路実現に役立っている」肯定的回答率 80%以上を維持
- 【【生徒】R5 86.57%、R6 85.5%、R7 91.0% 【保護者】R5 85.0%、R6 80.0%、R7 79.5%)
- 2 豊かな心、たくましい人間性の涵養と安全安心な魅力ある学校づくり
- (1) 規範意識の醸成を図り規律ある安全安心な教育環境を確保する。
- ア あいさつ、時間厳守、身だしなみ等規範意識の醸成を図る。
- イ 交通安全マナーの向上を図る。
- ※遅刻総数の減少 (R5 896 回、R6 932 回、R7 949 回) →前年度減
- (2) 安全で安心な学校生活の推進
- ア 生命や自他ともに大切にする心を育て人権侵害を許さない体制を確立する。
- イ 個々の生徒に寄り添ったきめ細かな支援による教育相談体制の充実を図る。
- ウ 防災・防犯、感染症等に対する対応を含む取組みの推進を図る。
- (3) 生徒の自発的活動の支援及び生徒の可能性を伸ばす教育の実践
- ア 柔軟で楽しめる学校行事・生徒会活動の充実を図る。
- イ 活発な部活動を通して豊かな人間力の育成をめざす。
- ウ 校内の環境整備及び設備等の充実により生徒の学習活動を活性化させる。
- 3 体育科設置校として、体育・スポーツ教育の推進をめざす。
- (1) 体育科の授業を通して、トップアスリート・競技指導者等生涯を通してスポーツに関わる人材を育成する。
- ア 競技力の向上及び指導力の育成に積極的に取り組む。
- イ スポーツの価値を高め、多様な関わり方を自ら実践できる資質・能力を身に付ける。
- ウ 生涯を通してスポーツの意義や価値を広めたり向上させたりすることができる人材を育成する。
- (2) スポーツ拠点校として、地域スポーツの推進及び発展に寄与する。
- ア スポーツを通じてコミュニティの形成や次世代の育成など地域活性化に貢献する。
- イ スポーツの価値を高め、社会の活力や豊かさにつながる取組を積極的に推進する。
- ※摂津カップの地域イベント化（官民連携の構築）→【(仮称) 摂津スポーツフェスティバルへ拡大】参加者 1000 人規模へ
- 4 学校力の向上
- (1) 地域の周辺学校・家庭・関係機関等との強固な信頼関係の構築
- (2) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成
- (3) 業務の工夫、効率化による超過勤務時間縮減と生徒と向き合う時間の拡充へ
- (4) 魅力ある学校（環境）への変革

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
---------------------------	--------------

--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と進路実現	(1) 創意工夫にもとづく教育活動の充実	ア 「観点別学習状況の評価」の計画・実践（指導）・評価・改善の一連の活動を実践。	ア 学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめ発表する機会」85%以上を維持。[91.9%]	
		イ 初任者研修、経過研修等を活用して教員相互の研究授業を実施し、取り組み事例を共有。	イ 学校教育自己診断（教職員）「各教科において教材の工夫や評価の在り方について話し合う機会がある」90%以上を維持。[95.0%]	
		ウ 保護者等を対象とした公開授業を積極的に実践し、「学び」の見える化を実現	ウ 学校教育自己診断（保護者）「配付物やウェブページなど積極的な情報発信の項目 80%以上 [70.5%]	
	(2) ICT の効果的活用	ア ICT 端末活用の工夫・改善を推進。	ア 学校教育自己診断（生徒）「学校は1人1台端末を効果的に活用している」95%を維持 [99.1%]	
		イ 国のDX 事業によるプログラミング教材を活用し生徒の論理的思考力を高める。	イ 「情報Ⅰ」独自追跡授業アンケートにおける肯定的意見 80%以上を維持[88.8%]	
		ウ 情報リテラシーの育成 情報に振り回されず、賢く使う力を獲得。	ウ 「情報Ⅰ」独自追跡授業アンケートにおける情報リスクに関する項目において、その理解 90%以上を維持[85.0%]	
	(3) キャリア教育の推進	～ガイダンスの企画や外部人材の有効活用～ ア 外部人材を活用し、1年生は「職業別」、2年生は「分野別」の説明会を年1回以上実施。早期に進路意識を「見える化」。	アイウ・学校教育自己診断（生徒・保護者）「学校の進路指導は進路選択・進路実現に役立っている」肯定的回答率生徒・保護者ともに 80%以上 [生徒 91.0%、保護者 79.5%] ・難関私立大学合格者数を、前年度と同レベルに維持する。[72 人/243 人]	
		イ 進路意識を高める取組みとして身近な存在である上級生の話を聞く機会を創出。		
		ウ 講習等を外部委託し、進路意識を高める	ウ 夏季休業期間中、外部講師による進学講習を実施[進学講習参加生徒数]（新規）	
	(4) 外国語教育の充実	ア 英検講習の充実 日常的な日常会話能力の向上と実用英語検定資格取得の取組みを推進	ア 実用英語検定2級及び準2級の合格者数を 10 名以上維持。[2級5名、準2級8名]	
		イ 国際交流機会の拡充 ・オーストラリア・クイーンズランド州バンダバーグのセントルークス校との姉妹校等との交流充実方策を検討。 ・修学旅行の行き先の再検討（海外を視野に検討・検証）	イ オンライン交流を長期（夏季・冬季）休業中にそれぞれ1回実施[夏季1回]	
		ウ ALT を活用した英語学習 ・ALT の有効活用により、英語に対する興味・関心を向上させ、英語学習意欲を高める。	ウ 授業独自アンケートによる肯定的回答率 80% 以上を得る[新規]	

2 豊かな心、たくましい人間性の涵養と安全安心な魅力ある学校づくり	(1) すべての教育活動を通じて、規範意識の醸成、自らを律し他人を思いやる心を育てる	規範意識の醸成を図る。 ア 「社会規範」を意識した行動へ ・「時間」や「ルール」を守ることの大切さを生徒に伝え、規範意識を醸成 ・卒業までに基本的生活習慣を獲得させる ・1年生を対象とした警察による「交通安全指導」を実施。 ・「交通安全指導週間」を年2回設定し、ヘルメット着用を含む自転車マナー順守の注意喚起を実施する。 イ 地域社会（青少年連絡協議会）との連携を通じて、マナー向上のための啓発等を積極的に行い、青少年の健全育成に寄与する。	ア ・遅刻数を前年度比減にする[949 回] ・登下校時の自転車による事故件数を0（ゼロ）をめざす【3件】 アイ 学校教育自己診断（生徒）「学校内外で規律を守り、モラルある行動をとっている」肯定的意見 90%以上を維持[98.3%] イ マナー向上に関する地域イベントへの協力参加を年間3回実施する[新規]	
	(2) 安全で安心な学校生活	ア 人権学習の充実 ・教材等を精選した人権学習を実施し、人権意識の高揚を図る。 イ 情報リテラシー教育の充実により情報社会を生き抜く基礎力を育成 ・SNS 等での情報発信する際に必要な情報モラルについて指導。 ・「情報」の授業を中心に情報社会における正しい判断、望ましい態度を育成。 ウ 教職員対象の安全関連講習会は参加必須 ・外部講師の招聘により最新の心肺蘇生法（AED 使用）を知識・技能を獲得。 ・エピペン講習会の実施。 ・防災訓練を活用したマニュアル等の総点検	アイ 学校教育自己診断（生徒）「個の違いを認め合う人権を尊重する態度を身に付けるように取り組んでいる」95%以上を維持[97.2%] アイ 「情報Ⅰ」独自追跡授業アンケートにおける情報リスクに関する項目においてその理解度を 90%以上を維持[85.0%]（再掲） ウ ・命に係わる教職員向け研修を年間2回実施【1 回】（新規） ・学校教育自己診断（生徒）「防災意識が高まったと思う」90%以上を維持[90.5%]	
	(3) 自主的活動の支援	ア 学校行事と生徒会活動の充実 ・生徒の自主的活動を促進し、魅力ある「楽しい」学校行事を実現する ・学校行事や生徒会活動を中心に魅力ある教育活動を積極的に発信する（SNS の活用）。 ・ホームページのコンテンツを充実 イ 生徒が成長できる部活動体制の構築 ・スポーツや文化活動を通して、専門的な技能や知識を習得し、生涯にわたる活動の基礎を獲得。また、仲間との協調性や責任感を育み、自己肯定感を高める貴重な機会を確保。 ウ 図書室の活用促進 ・教科、探究、調べ学習に積極的に利活用。 ・利用しやすい環境づくりを実践。	ア ・学校教育自己診断（生徒）「学校の行事に積極的に取り組んでいる」肯定的意見 90%以上を維持[96.3%] ・中学生対象の学校説明会時の部活動見学者を前年度以上にする。[520 名] ・ホームページのコンテンツを毎年2つ以上新規作成する[新規] イ ・入部率 80%を維持[78.7%] ・学校教育自己診断（生徒）「部活動等に積極的に取り組んでいる。」肯定的意見 80%以上を維持する。[84.1%] ・毎年、近畿大会以上の大会に参加する部活動数を2以上を維持[2]（新規） ウ 図書室の利活用頻度を、昨年度以上にする。[72 回]	

3 体育・スポーツ教育の推進	(1) 体育科専門の授業を通しての人材育成	ア 「スーパーインストラクター招聘事業」のによるトップアスリート、コーチによる講演等を効果的に実施し、生徒の意識改革を図る。	アイ 体育科独自アンケート（生徒）「スポーツへの多様な関わり方の興味・関心が高まった」肯定意見 80%以上をめざす。[肯定的意見 100%(受講者9月 130 人・1月 143 人)]	
	(2) スポーツ拠点校として地域スポーツの推進を図る。	イ 高大連携の一環として大学教員を招聘し授業等においてスポーツの持つ多面的な価値を学び、人間力の育成を図る。	イ 大学教員による講演会を2回以上実施 [2回]	
		ア ・近隣学校等の体育的行事の企画・運営等を行い、スポーツの「支える」を体験する。 ・中学校の部活動及び地域のスポーツクラブへの活動の場の提供。 ・近隣小学生、中学校運動部等を対象に『SETTSU CUP』を開催。本校体育科の魅力発信と地域スポーツの発展に寄与。	ア ・近隣学校等の体育的行事参加者の「満足感が得られたかどうか」肯定的意見 80%以上[98%] ・活動を支援した中学校の部活動及び近隣スポーツクラブ併せて延べ300 団体以上を維持する（個人も1 所属団体とカウント）[512 団体]	
4 学校力の向上	(1) 学校・地域中学校等との連携	ア 学校説明会及び出前授業等の充実。	ア 出張出前授業、学校説明会等を6回以上実施 [6回]	
		イ 地域イベントへの協力体制を構築	イ 地域イベントに2回以上参加[新規]	
	(2) 教職員の組織的・継続的な育成を図る。	ア 人権教育/教育相談 ・研修等を通じて合理的配慮等の正しい理解と相互に資質を高め合う環境の醸成。 ・教職員が人権意識を高め、正しく人権課題に対峙できる体制を整える。	ア ・学校教育自己診断（教員）「人権尊重に関する様々な課題等、教職員が話し合う機会がある」肯定的意見 80%以上[72.5%] ・学校教育自己診断（教員）「体罰や各ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた指導が行われている」肯定的意見 80%以上を維持する。[80.5%] ・学校教育自己診断（教員）「生徒が相談しやすい環境をつくるよう努めている」肯定的意見 85%以上を維持する[82.9%]	
		イ 綱紀保持・遵守の徹底 ・規範、ルールの具体提示 ・研修の充実 ・チェック体制の強化	イ 全教職員対象に「個人情報の適正管理のために」にあるセルフチェックシートを用いて自己点検を定期的実施しているか。	
	(3) 長時間労働の削減	ア 定時退庁日とノークラブデー等部活動方針の遵守・徹底。	ア ・年間平均時間外在校等時間 40 時間以内を維持 [36 時間] ・年間時間外在校等時間が 720 時間を超える教員をゼロにする[15 名]	
		イ ICT 活用による教材等の共有化。	イ 学校教育自己診断（教員）「先生方は、一人1 台端末を効果的に活用している」の 100%目標 [94.9%]	
	(4) 魅力ある学校（環境）への変革	ア 快適な学びの空間創出	ア 教職員による校内景観の改善を年間3回以上実施する[新規]	
		イ 校内外の美化	イ 生徒会による美化運動を年間3回実施[新規]	